【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第６区分
【発行日】平成19年8月2日(2007.8.2)

【公開番号】特開2006-1579(P2006-1579A)
【公開日】平成18年1月5日(2006.1.5)
【年通号数】公開・登録公報2006-001
【出願番号】特願2004-179212(P2004-179212)
【国際特許分類】
Ｂ６５Ｂ　61/06　(2006.01)
Ｂ６５Ｂ　 9/10　(2006.01)
Ｂ６５Ｂ　51/10　(2006.01)
Ｂ６５Ｂ　61/18　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６５Ｂ　61/06
Ｂ６５Ｂ　 9/10
Ｂ６５Ｂ　51/10　　Ｗ
Ｂ６５Ｂ　61/18

【手続補正書】
【提出日】平成19年6月15日(2007.6.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ウェブ状包装材から連続形成される先行する袋と後続する袋を分離カットする袋切断用カッタ装置において、平坦状態にある前記包装材の両側縁間の中間部を突き切る本体刃部と、前記本体刃部の両側の少なくとも一方の端部から互いに分岐し前記包装材の角部を切断する二つのアール状分岐刃部とから成るカッタ刃を備えていることから成る袋切断用カッタ装置。
【請求項２】
前記包装材を横切って前記袋用のエンドシールを施すエンドシーラに、請求項１に記載の前記袋切断用カッタ装置を組み込んで成るエンドシール・カッタ装置。
【請求項３】
前記エンドシーラは互いに対向し且つ互いに接離可能な二つのシールブロックから成り、一方の前記シールブロックには前記カッタ刃を進退可能に収容するスリットが形成されており、他方の前記シールブロックには一方の前記シールブロックから進出した前記カッタ刃が入り込み可能な逃げ溝が形成されており、
更に、前記エンドシーラは前記包装材に対して接近・離間する往復駆動される往復動シーラとして構成されており、前記袋切断用カッタ装置は前記エンドシーラの往復動作に応じて作動して前記筒状包装材を突き切りする突き切りカッタとして構成されていることから成る請求項２に記載のエンドシール・カッタ装置。
【請求項４】
前記エンドシーラの一方又は他方の前記シールブロックは、前記本体刃部の各端位置の側方で且つ前記アール状分岐刃部の間の領域において前記カッタ刃の付き切り方向と平行な方向に出没駆動され前記アール状分岐刃部によって切断される前記包装材の切れカスを相手側の前記シールブロックとの間で挟む押さえピンを備えていることから成る請求項３

に記載のエンドシール・カッタ装置。
【請求項５】
前記包装材を筒状包装材に成形し前記筒状包装材の内部に製品を充填しつつ前記筒状包装材に前記エンドシールを施して袋を形成することにより、前記製品が前記袋内に包装された袋包装体を連続的に製造する製袋充填包装装置に適用されていることから成る請求項２～４のいずれか１項に記載のエンドシール・カッタ装置。